

令和 4 年 6 月 15 日現在

機関番号：33919

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2021

課題番号：18K00360

研究課題名(和文) 戦後初期(1945～1949)台湾における女性文芸の発見とその展開

研究課題名(英文) The discovery and development of Taiwanese female literature in the Early post
Guang-fu Era

研究代表者

松浦 周子(豊田周子)(Matsuura, Noriko)

名城大学・外国語学部・准教授

研究者番号：10749807

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、台湾・日本・中国・朝鮮半島といった東アジア文化圏の文化的連続性や共通性に注目しながら、戦後初期(1945～1949)に書かれた「台湾女性の文芸活動」を、「文学研究」の立場から再発見し、拙著『台湾女性文学の黎明 描かれる対象から語る主体へ1945-49』(関西学院大学出版会、2021)としてまとめた。本書では、戦後初期に台湾女性文学の揺籃期の作品と見做し得る中国語白話詩が書かれていた可能性を指摘するとともに、在日台湾人女性の主体性確立の様子が描かれた日本語文学の存在を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、戦後初期に台湾女性たちによって書かれた文芸作品を通じて、戦後の台湾女性の主体性が如何にして形成されたかを探求している。歴史に埋もれたマイノリティである台湾女性の精神的営為を明らかにすることは、男性作家の作品が中心となった既存の文学史や文学評価の基準を再考するという意義を持つだけでなく、今日の社会的趨勢にも符合することと言える。

研究成果の概要(英文)：This research focuses on the cultural continuity and commonalities within East Asia between Taiwan, Japan, China, and the Korean Peninsula in the early postwar period (The period in this application will refer to 1945-1949) from the position of “literary research”, published as *The Rise of Female Writers in Taiwanese Literature: from being the object to being the creator 1945-1949* (Kwansei Gakuin University Press, 2021). In this book, we will examine poems written in Chinese colloquial style as Taiwanese women’s infancy literature in the early postwar period, and explore the Japanese-text that describe the construction of Taiwanese women’s Independence.

研究分野：台湾文学・中国近現代文学

キーワード：台湾 女性 戦後初期 ライティング 文学

1. 研究開始当初の背景

台湾の日本語文学は、比較文学研究やエリアスタディーズ、また語圏文学や世界文学の研究に至るまで、21世紀にも普遍的な研究対象として多領域から注目されている。しかしそれらの多くが、男性作家の書いた代表的な「小説」を対象としており、女性のライティングに関する文学研究は一定数あるものの、文学研究の全体からみれば依然として周縁に置かれている。その立ち遅れの原因の一つに、植民地制度と家父長制下に、当時は女性作家の誕生自体が極めて難しく、分析対象となる作品の絶対数が少ないことが挙げられる。

日本植民地統治下の台湾(1895～1945)では、「国語」としての日本語教育が段階的に徹底されていった。だが、そのような過酷な言語環境下においても、著名な男性作家は幾人も輩出している。一方で、女性作家はわずかに二、三を数えるにすぎない。同時代の中国文学と比べても、台湾文学において女性の書き手が極端に少ない事実は、植民地の言語政策と、漢族系社会、また植民地を通じて影響を及ぼした日本社会における伝統的な女性軽視の観念とが、重層的に合わさり生じた現象といえる。とくに、文学創作という高度な言語運用能力を求められる作家業における性差は、日本統治期以降、台湾が中華民国に復帰し、日本語から中国語へと「国語」の転換があった戦後初期において顕著に見られる。

従来の台湾文学研究において、例えば、台湾女性文学研究の代表格である邱貴芬は、台湾の現代女性文学研究を著しく進展させてきた。我が国においても、中国文学研究者の白水紀子・垂水千恵らが、台湾現代文学に関して、ジェンダー・ポリティクスとセクシュアリティの研究を精力的に進めてきた。また、台湾文学研究の第一人者である陳芳明は、その著書『台湾新文学史』のなかで、特別に女性文学に関して一章を設けるなど、台湾文学における女性文学の重要性を強く押し出してきた。ただし、いずれの研究においても、1950年代以降の作品を取り上げるのが通例となっており、戦後初期の女性解放運動とも深く関わる当時の女性文芸については言及されていない。このように、戦後初期の台湾女性による文学創作は、女性史的立場からその存在が指摘されることはあったが、文学研究の対象となることは長らくなかったのである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、戦後初期台湾における女性の文学的営みを発掘し、文学的手法による分析を加えたうえで、それらの作品群を文学史に位置づけるところにある。具体的には、次の四点についての解明を目的としている。

- (1) 戦後初期台湾の女性文芸を網羅的に調査し、その全体像を明らかにする。
- (2) 女性文芸のテキスト分析を通じて、戦後初期の台湾女性の主体性の有り様を探求する。
- (3) 同時代の台湾漢民族系男性作家の作品にみられる女性表象との差異を明確にする。
- (4) 同時代の日本・中国・朝鮮における女性文芸と比較することで、戦後初期台湾の女性文芸の独自性を明らかにする。

3. 研究の方法

本研究は、主として以下の三つの側面から研究対象にアプローチしている。

(1) 文献探索と一時資料の目録作成

戦後初期台湾において、『台湾新生報』『中華日報』『力行報』などの紙誌に関する調査を行い、そこに掲載された中国語白話詩(新詩)から、台湾女性に関するライティングを渉猟し、戦後初期台湾の女性文芸に関する目録を作成した。

(2) 作品分析

①上記(1)で得られた資料の文学史的意味を、戦後初期台湾の言論界の状況を踏まえ考察した。

②台湾人女性陳蕙貞(1932～2005)が戦後初期に書いた日本語小説『漂浪の小羊』(1946)について、同時代男性作家の作品に見える女性像とも比較検討しながら、当該作品の女性像の独自性について検討を加えた。ここでは、戦前に渡日した台湾知識人女性の置かれた境遇やその内面心理、また日本に生まれ暮らした台湾少女が主体性を確立してゆく様子など、同時期の台湾文学としては稀有な場面が認められることを指摘した。

(3) 比較文学的研究

戦前の「国語教育」のなかで、「日本人としての教養」を身に着け「より良き大和撫子」となるために台湾女性たちが書いた「和歌(ここでは短歌)」の実態について、朝鮮半島の事例を参照しながら、基礎的考察を行った。

4. 研究成果

本研究の成果は、大きく二つに分かれる。

(1)一つ目は、拙著『台湾女性文学の黎明——描かれる対象から語る主体へ 1945-49』(関西学院大学出版会、2021)を上梓し、台湾文学における女性表象とその書き手について、以下の三点を明らかにしたことである。

①台湾新文学の一大テーマであった家父長制下の女性問題は、戦前戦後を通して主として男性作家により書かれたものであった。そのなか台湾女性は、日本統治期には植民地台湾の寓言として表象され、また戦後初期には兩岸の政治的問題が投射されるなど、女性自身が抱える現実的問題から乖離して描かれる傾向があったこと。

②戦後初期の台湾では、政治体制の変化に伴い公的言語が「日本語」から「中国語」へと切り替わるなか、日本語作家の多くが創作言語の転換を迫られ、女性作家は日本時代以上に減少する。一方、大陸から渡ってきた国民党系の女性解放運動のリーダーらを中心にして、主力新聞に婦女の専門欄が開設され、彼女らが中国語で台湾女性の置かれた苦境や心理を代弁して綴った口語自由詩が掲載された。これらの詩を検討すれば、1950年代に開花する台湾女性文学の揺籃期の作品と見做し得る可能性があること。

③戦前に日本で生まれ暮らした台湾少女が、戦後直後に書いた日本語小説『漂浪の小羊』(1946)には、戦前の日本社会や日本人をつぶさに観察する在日台湾女性の視点や、民族差別の蔓延する日本社会のなかで台湾少女の主体性が力強く芽生えゆく描写など、従来の台湾文学研究では看過されてきた視角が認められること。

(2)二つ目は、本プロジェクトの発展の方向性が得られたことである。上述の拙著執筆の過程で、植民地の高等女学校の国語教育における「短歌・俳句」に関する教育の実態や、それらの日本語短詩文芸の創作活動と台湾女性の主体性確立の関係、また日本語教育が行われた他の植民地地域の状況についても検討する必要性が出てきた。

この点については、筆者の所属学会である「台湾文学学会」(台湾)において、「従「少女」

到「女性」，以及作為此自我成長之方法的「短歌」——發掘戰後初期臺灣女性文藝」(2020 台灣文學學會年度學術研討會)と題して、今後の研究構想のアウトラインをすでに発表している。ここでは、在日朝鮮人女性のライティングや朝鮮国内の女性文芸の状況について、先行研究をもとに整理し、台湾・朝鮮の両地域において、戦前に日本の識字教育を受けた女性による「日本語短詩文芸」創作の共時性が認められることを指摘した。

しかしこれらの取り組みは、すでに本研究プロジェクトの範疇を超えるものであるため、新たな研究プロジェクト「東アジア女性による日本語詩歌創作とその主体性に関する研究——台湾と朝鮮を中心に」(科学研究費補助金基盤研究(C)21K00334・筆者研究代表者)として引き続き考究してゆきたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 豊田周子	4. 巻 第 472・473 合併号
2. 論文標題 【解題】「吳濁流（1900-76）『無花果』」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『中国文芸研究会会報』	6. 最初と最後の頁 17-19頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 豊田周子	4. 巻 33
2. 論文標題 「陳蕙貞『漂浪の小羊』に描かれた女性たち 光復後初期台湾女性文芸の発見」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『中国学志』	6. 最初と最後の頁 51-80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 豊田周子	4. 巻 20
2. 論文標題 「書評： 星名宏修著『植民地を読む「賈」日本人たちの肖像』：台湾文学研究の死角から日本の「近代」を問い直す」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『日本台湾学会報』	6. 最初と最後の頁 198-204
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 豊田周子	4. 巻 100
2. 論文標題 「光復後初期台湾における女性文芸の発見 『台湾新生報』『台湾婦女週刊』欄掲載詩の意味」	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『中華文藝の饗宴：「野草」第百号』	6. 最初と最後の頁 340 - 369
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計5件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 豊田周子
2. 発表標題 「從「少女」到「女性」，以及作為此自我成長之方法的「短歌」 發掘戰後初期臺灣女性文藝」
3. 学会等名 想像2010年代台灣文學史：2020台灣文學學會年度學術研討會（國際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 豊田周子
2. 発表標題 「陳蕙貞『漂浪の小羊』再論 女性・ライティング・「和歌」」
3. 学会等名 日本現代中国学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 豊田周子
2. 発表標題 （コメンテーター）松崎寛子「鄭清文中編小説「大和撫子」におけるジェンダーと被植民をめぐる記憶」
3. 学会等名 日本台湾学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 豊田周子
2. 発表標題 「【手篇+穴かんむりの下に「乙」】掘光復後初期台灣女性文藝活動：以 陳蕙貞《漂浪の小羊》的女性形象」
3. 学会等名 台灣文學再跨越：2018台灣文學學會年度學術研討會（國際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 豊田周子
2. 発表標題 「論評：張明敏・秋吉收著 一台湾作家の訳した魯迅 楊達編「“中日文対照”中国文芸叢書」『阿Q正伝』をめぐる」
3. 学会等名 「中国文芸研究会」
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 豊田周子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 関西学院大学出版会	5. 総ページ数 231
3. 書名 『台湾女性文学の黎明：描かれる対象から語る主体へ1945-1949』	

1. 著者名 豊田周子ほか13名との共著	4. 発行年 2018年
2. 出版社 研文出版	5. 総ページ数 415
3. 書名 中国文芸研究会編『中華文藝の饗宴：『野草』第百号』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織		
氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------